

# 東京都福祉サービス第三者評価 評価結果

## 評価結果基本情報

評価年度	平成30年度
サービス名称	認可保育所
法人名称	社会福祉法人白菊会
事業所名称	かみこまつ保育園
評価機関名称	N P O 法人 ヒューマン・ネットワーク

## コメント

園が大切にしている保育理念や方針・目標をどの様に実現しているのか、組織運営の専門家と保育現場を熟知した評価者が丁寧に確認し、合議を事前・事後行い確認事項の共有を徹底して、公平性・正確性・専門性の高い報告書作成に努めた。

(内容)

- I 事業者の理念・方針、期待する職員像
- II 全体の評価講評
- III 事業者が特に力を入れている取り組み
- IV 利用者調査結果
- V 組織マネジメント項目（カテゴリー 1～5、7、8）
- VI サービス提供のプロセス項目

公益財団法人東京都福祉保健財団

Copyright©2003 Tokyo Metropolitan Foundation of Social Welfare and Public Health. All Rights Reserved.

## I 事業者の理念・方針、期待する職員像

<b>1</b>	<b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b>
	事業者が大切にしている考え方（事業者の理念・ビジョン・使命など）
	理念・ビジョン、基本方針 1)保育園と家庭は、子育てを担う車の両輪として十分に機能するよう、よく話し合い、緊密に連携しつつ、養護と教育を一体的に行う。2)地域の子育てネットワークの一部として機能するよう、情報交換を行い、必要な情報を提供するとともに、保育需要の把握につとめる。3)薄着の習慣を身に着け、歩くことにより丈夫な体をつくる。4)職員は、専門職としての役割を果たすために、研究の意欲を持ち続け、くわえてみずから手本となるよう、夢と目標を持つ。5)職員は、子どもにとって家庭的であたたかみのある保育環境を提供するために、倫理観と専門性に裏付けされた最良の人間関係を維持する。保育目標 1)丈夫な体を作る 2)明るく夢を持ち、のびのびとした心を育てる 3)思いやりのあるやさしい心を育てる 4)基本的な生活習慣の自立
<b>2</b>	<b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b>
	(1) 職員に求めている人材像や役割
	職員に求めている人材像や役割 1)子どもたちを始め、保護者や職員など園に関わる人たち全ての幸せを願い、実行していく集団。2)それぞれの持つ能力や個性を尊重し、認め合っていく集団。3)保育の専門家として、子どもたちがより健やかに育っていけるような環境を創りだしていく人。4)自分達のクラスだけではなく、園の子どもたちを皆で見守っていくという温かい目。5)専門家として自己研鑽に励み、学び合っていく姿勢。
	(2) 職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）
	職員に期待すること 1)職員自らが「夢と希望ある生き方」を実践して、子どもたちのお手本となる力。2)家庭内の家事や育児などの仕事ぶりを積極的に評価し、親を励まし、家庭に元気を与える力。3)子育ての楽しさを言葉で説明・記録して、気付かぬ人や必要とする人に提供できる能力。4)子供の育つ環境、穏やかで緩やかな時間を構成して、安心感のある暮らしを提供する力。5)保育所職員である以前に、社会人としての常識と人権を尊重する意識をしっかりと備えた人間性。

## Ⅱ 全体の評価講評

### 全体の評価講評

#### 特に良いと思う点

	<b>全職員が一人ひとりの子どもをよく理解し、子どもの主体性を尊重した丁寧な保育を行っている</b>
1	保育理念・目標を実践するために、「非認知的能力の向上」「自己肯定感の向上」を大切に、「子どもの主体性を尊重した遊びの時間と空間に配慮した保育」を職員主体で考え実践する様にしている。そのためにファシリテーション研修で皆で話し合いチームワーク力の向上に努め、全職員で目標の実践に取り組んでいる。また、小人数な園なので全職員が一人ひとりの子どもと各家庭を理解し子ども一人ひとりに声をかけ丁寧な保育を行っている。保護者のアンケート評価も総合評価が「大変満足」60%「満足」36%と非常に高い評価であった。
2	<b>働き易い信頼関係の高い職場づくりにつとめ職員の定着率が高い</b>  職員の意向を聞き、長く働き続けられる職場づくりに努め、職員の定着率が高い園である。働き甲斐があり働き易い職場づくりのために配慮している主要な事は①ファシリテーション研修などで職員相互の理解を深めチームワークの良い信頼関係の高い職場を作る事②出産、子育て、介護など個別事情を配慮し長く勤務できる体制を作る事③リフレッシュ休暇や有休などワークライフバランスを配慮する事④余裕のある勤務体制で残業など最小限にする事⑤記録のICT化、行事の簡素化など雑務の合理化などに取り組み、職員が働き易い職場となっている。
3	<b>地域の保育拠点として「子育て広場」「一時保育」事業の充実を図り、地域の子どもの成長の課題解決に向けて努力している</b>  地域の中の保育拠点として、「子育て広場事業の充実」と「一時保育事業の充実」に力を入れている。また、地域の「保育ママ」事業者との連携支援も行っている。在宅子育て家庭には育児のワンポイント講座等の情報を提供し、子育ての楽しさを伝えたり感染症対策の情報を提供したりで育児支援をしている。地域の園長会や青少年育成北地域委員会に出席し地域全体の子どもの成長課題について共有し課題解決に努めている。また、園としては保育実習生を毎年5~6名受け入れ、また、中学生・高校生の職場体験を受け入れ社会貢献に努めている。

#### さらなる改善が望まれる点

	<b>マニュアルでSDCAサイクルを回し定期的に全マニュアルの見直しを望みたい</b>
1	標準化はリスクマネジメント関係として安全対策マニュアル（事故及び災害）、感染予防マニュアル、虐待防止マニュアル、保育の業務関係として業務マニュアル等を整備し、特に今年度は業務や行事マニュアルの見直しで内容を簡素化し成果を挙げている。その都度で必要性の高いマニュアルは見直されているが、その他全般的に定期的なマニュアルの見直しが必要と思われる。マニュアルのSDCAサイクルを回すことは業務レベル向上の上で必要と思われる所以、4月の職員会議時に基本的なマニュアルは全部見直し共有化することが望ましい。
2	<b>現在取り組んでいる重要な研修をキャリアアップ計画の中での位置づけを整理し将来を見通せるように期待したい</b>  現状を踏まえ重要な研修課題を設定し計画的に研修を進めている。主な研修テーマは①ファシリテーション研修では全職員が意見を述べ他者の話を聞き、保育士自身の自己肯定感の向上や現場主体の保育運営の強化を目的とする②非認知的能力研修では保育実践踏まえて自尊心や自己抑制、忍耐力等の社会的情動スキルを育むことを目的とする。また、様々な外部研修には希望者が参加し園内で共有研修を行っている。行っている研修内容とキャリアアップ指導計画と連動した職員理解が不十分なので位置づけを整理し将来を見通せるように望みたい。
3	<b>保育所保育指針の研鑽を通じて、当園の理念を園長や幹部と職員が一層会話し理念に基づく運営を大いに期待したい</b>  保育所保育指針の改定の方向性、現状の課題等を踏まえて、当園の保育理念・目標の実践的課題を日常的に園長や幹部と現場職員とが一層話し合い理念に基づく運営を期待したい。保育所保育指針の研修を再度今年度の計画に設定されているので、時代的背景踏まえて改定された趣旨を話し合い方向性を全職員で共有して、当園が主要テーマとして取り組む「非認知的能力の向上」「自己肯定感の向上」の保育実践に向けて一層の話し合いを大いに期待したい。

### Ⅲ 事業者が特に力を入れている取り組み

	<p><b>★ 「管理職研修2018」を作成し経営幹部の研修をしている</b></p> <p>当園では今後園を取り巻く内外の環境条件が大きく変化することに備えて、幹部候補の育成が中長期的課題として最重要課題として取り組んでいる。テキスト「管理職研修2018」を作成し、法を初め経営幹部の基礎知識を網羅的に整理し経営幹部に研修している。経営幹部の役割の明確化と能力向上が園の発展に最も重要と思われる所以優れて取り組みと思われる。</p> <p><b>関連評価項目(経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている)</b></p>
2	<p><b>★ OJT研修は保育実践を通して能力向上を図る優れた取り組みである</b></p> <p>OJT研修として職員一人ひとりの年間目標を自己申告した上で、テーマを「非認知的能力を通して保育を見直す」として保育実践を交替で報告し、話し合っている。話し合いを効果的に行うためにファシリテーション研修を行い全職員が活発に発言しあいの意見を尊重しチームワークの向上を図っている。保育実践を通して能力向上を図る優れた取り組みである。</p> <p><b>関連評価項目(事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる)</b></p>
3	<p><b>★ 業務の効率化を進め職員の負担が少なくなっている</b></p> <p>10年前から記録のICT化を進めたため、職員はソフトを使い慣らして多様な引き出し（整理された情報）を自由に活用する様になっている。そのため記録作業の合理化と共有化が円滑に進んでいる。また、行事などのマニュアル化を進め同時に見直し行事の簡素化を図っている。全体的に業務の効率化が進んでおり職員の負担が少なくなっている。</p> <p><b>関連評価項目(職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる)</b></p>

## IV 利用者調査結果

### 調査概要

**調査対象：**利用する全園児の保護者（複数の園児が利用している場合は一世帯一人とした）を対象とした。

**調査方法：**アンケート方式

保護者に挨拶文とアンケートを配布して頂き、アンケートは匿名で直接評価機関に郵送して頂いた。

利用者総数	70人
利用者家族総数（世帯）	62世帯
アンケートや聞き取りを行った人数	62人
有効回答者数	44人
回答者割合（%）	71.0%

### 総括

総合的な感想は「大変満足」59%「満足」36%と満足以上の回答が95%と大変高い回答であった。項目別にも90%以上の「ハイ」回答の項目が9項目あり高い評価であった。内容は「園での活動が発達に役立っているか」「活動は興味・関心を持つものか」「食事は配慮されているか」「戸外遊びは確保されているか」「急な残業など利用時間の変更に柔軟な対応」「職員との信頼関係」「園内の整理整頓」「病気やケガの対応」「気持ちを大切にしてくれるか」等であった。50%以下の項目は1項目「職員以外の人への相談体制の周知」であったが、無回答の方を除くと69%の「はい」回答であった。総合的な自由意見として「子どもがのびのびして雰囲気の良い園です」「先生が元気で親切で全職員が子どもも親も覚えて下さり声をかけてくれる」「コミュニケーションが上手く行っている」「一生懸命に細やかな保育と対応をして下さる」等の感謝の声が多く寄せられた。

### 利用者調査結果

#### 1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか

はい	44人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」回答率は100%と大変高い評価であった。自由発言としては「食育やどろんこ遊びなど、普段、家庭ではなかなか難しい内容を行っていてくれるのが嬉しいです」「行事など大変工夫がされており、園児以外に参加する兄弟にも配慮して下さっており、大変満足しています」「保育園でたくさんのことを見てくれる」等であった。

#### 2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか

はい	44人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」回答率は100%で前問と同様に大変高い評価であった。自由発言としては「子どもが毎日楽しく通っている」「保育園での生活を楽しんでいる」「いろいろな行事を通じ体験する機会が多くよいと思う」「子どもがのびのびしている」等であった。

#### 3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか

はい	42人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」回答率は95%「どちらともいえない」回答率は5%で高い評価であった。自由発言としては「いつも先生方には頭が下がります。本当に全然食べないので、感謝の気持ちでいっぱいです」「食事のマナーなどもケアして下さって感謝です」「細かい体調や食事量などお迎えの時に口頭でいただくことが多い」等であった。

#### 4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか

はい	44人	どちらともいえない	0人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」回答率は100%と大変高い評価であった。自由発言としては「毎日0才児から散歩に連れていくて下さるのは大変助かります」等であった。

#### 5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか

はい	34人	どちらともいえない	1人	いいえ	0人	無回答・非該当	9人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

無回答の方を除けば「はい」回答率は97%で高い評価であった。自由発言としては時間の柔軟な対応に1件要望が寄せられた。

#### 6. 安全対策が十分取られていると思うか

はい	34人	どちらともいえない	10人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	-----	-----	----	---------	----

「はい」回答率は77%「どちらともいえない」回答率は23%であった。自由発言としては「難しいと思いますが、1階の受付には誰かしらいた方がよいと思います。朝・夕含め（特に18:00すぎ）」「引き戸で指を挟まないか少々不安」等の意見が寄せられた。

#### 7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か

はい	31人	どちらともいえない	9人	いいえ	2人	無回答・非該当	2人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」回答率は70%「どちらともいえない」回答率は20%「いいえ」回答率は5%であった。自由発言としては「親子遠足・何とか（土）は難しいでしょうか…」「個人面談の時間が早いため、仕事を早退しなければならない」「保護者会が夕方から始まるのでありがたい」「1ヶ月の間にいくつもの行事を入れられると参加しづらい」等要望が寄せられた。

#### 8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか

はい	40人	どちらともいえない	4人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」回答率は9 1% 「どちらともいえない」回答率は9 %で高い評価であった。自由発言としては「先生方が連絡帳には書かれないような日々の様子や保育園での様子を、会うと必ず話してくれます」「ミルクの時間や服装について細かいこともきちんと相談に乗って下さり大変助かっています。信頼できる先生方です」「複数の先生が保育にかかわっていて、子供の様子も複数の視点で聞く事ができるのでとても良いと思います」等であった。

#### 9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか

はい	42人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」回答率は9 5% 「どちらともいえない」回答率は5 %で高い評価であった。自由発言としては「いつもきれいです」等であった。

#### 10. 職員の接遇・態度は適切か

はい	37人	どちらともいえない	5人	いいえ	1人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」回答率は8 4% 「どちらともいえない」回答率は1 1% 「いいえ」回答率は2 %であった。自由発言としては「挨拶がいいです」「先生方も、みなさん親切で親しみやすい」「個人差があります」等であった。

#### 11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか

はい	41人	どちらともいえない	2人	いいえ	0人	無回答・非該当	1人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」回答率は9 3% 「どちらともいえない」回答率は5 %で高い評価であった。自由発言は特に無かった。

#### 12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか

はい	30人	どちらともいえない	7人	いいえ	0人	無回答・非該当	7人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

無回答の方を除けば「はい」回答率は8 1% 「どちらともいえない」回答率は1 9 %であった。自由発言としては「まだそのようなことが起こっていません」「聞いたことがないためわかりません」等であった。

#### 13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか

はい	39人	どちらともいえない	5人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」回答率は8 9% 「どちらともいえない」回答率は1 1%と高い評価であった。自由発言としては「担当の先生以外の先生方も、親子共々覚えてくださっていて、声をかけて頂くと嬉しくなります」「先生方は子供に対してとてもよくしてくれている」「お誕生日のその日にお誕生会をしてくれるのは、とてもうれしいと思います」等であった。

#### 14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか

はい	35人	どちらともいえない	6人	いいえ	1人	無回答・非該当	2人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」回答率は8 0% 「どちらともいえない」回答率は1 4% 「いいえ」回答率は2 %であった。自由発言は特に無かった。

#### 15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか

はい	39人	どちらともいえない	5人	いいえ	0人	無回答・非該当	0人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」回答率は8 9% 「どちらともいえない」回答率は1 1%であった。自由発言としては「日頃の子どもの活動を、時には写真等を利用して伝えてくれるので、普段の様子がわかり嬉しいです」「担当の先生は、お迎えの時等、保育園の様子を伝えてくれます」等であった。一方「もう少し丁寧に説明してほしい」との要望が寄せられた。

#### 16. 利用者の不満や要望は対応されているか

はい	32人	どちらともいえない	8人	いいえ	0人	無回答・非該当	4人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	----

「はい」回答率は7 3% 「どちらともいえない」回答率は1 8 %であった。自由発言としては「今のところ不満等はない」「主任や幹部は約束してくれます」等であった。

#### 17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか

はい	18人	どちらともいえない	6人	いいえ	2人	無回答・非該当	18人
----	-----	-----------	----	-----	----	---------	-----

「はい」回答率は4 1% 「どちらともいえない」回答率は1 4% 「いいえ」回答率は5 %であった。自由発言は特に無かった。

## V 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7、8）

※実施あり：、実施なし：、非該当：

カテゴリー1 リーダーシップと意思決定			
評価項目1		事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している	実施状況
標準項目1		事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	<input type="radio"/>
標準項目2		事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	<input type="radio"/>
評価項目2		経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	実施状況
標準項目1		経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	<input type="radio"/>
標準項目2		経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	<input type="radio"/>
評価項目3		重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	実施状況
標準項目1		重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	<input type="radio"/>
標準項目2		重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	<input type="radio"/>
標準項目3		利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	<input type="radio"/>

### 講評

#### 保育理念・目標を全職員で取り組んでいる事を保護者が高く評価している

保育理念、保育目標、保育姿勢、保育所の役割等をホームページや入園のしおり等に明示し、職員には年度初めの会議にて理念や基本方針を再確認している。また、保護者には入園のしおりにて入園説明会で説明し園だよりなどで具体的な取り組みを紹介している。保護者アンケートの自由発言では「職員全員が一人ひとりの子どもを優しく丁寧に細やかに対応して頂き、子どもが沢山のことを覚えて、安心して預けることができる」等の感謝の声が多く寄せられ、全職員で保育理念の実践に向けて熱心に取り組んでいる事が評価されている。

#### 経営層の役割を明示し組織運営力の向上に努めている

経営層や全職員の役割は運営規定にて、組織図と共に業務分担表明し、また、キャリアアップ指導計画では役割と求められる能力が明示されている。経営層の能力として重視される事は専門能力、管理能力と規定している。今年経営層がリーダーシップを発揮している内容は①OJT会議にて現場意見を重視した運営を図る②組織力強化のため主任の下に副主任2名を任命しリーダー層の指導力強化を図る③外部研修や保育所保育指針等に基づき視野の拡大を図る④コンプライアンスの強化⑤広報の強化等である。

#### 現場の意見を尊重した運営のため、より一層現場との会話を大切にする方針である

社会福祉法人改革に基づく変更点や経営上の重要案件は理事会や評議委員会にて検討・決議し、その都度職員には丁寧に説明している。日々の保育など運営上の意思決定をする場合には、現場保育士の意見を聞いて決定する様にしている。そのため現場の職員とのコミュニケーションが円滑に図れるように日頃の挨拶や会話を大切にしている。保育所保育指針が改定され、子どもの主体性をより大切にする保育に向けて、保育者が主体的に現場を創造していくことが重要なので、話し合いを重視して理念に基づいた保育に向け取り組んでいる。

※実施あり：、実施なし：、非該当：

カテゴリー2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行			
サブカテゴリー1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			
評価項目1		事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	実施状況
		利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input checked="" type="checkbox"/>
		事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input checked="" type="checkbox"/>
		地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input checked="" type="checkbox"/>
		福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input checked="" type="checkbox"/>
		事業所の経営状況を把握・検討している	<input checked="" type="checkbox"/>
		把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input checked="" type="checkbox"/>
サブカテゴリー2 実践的な計画策定に取り組んでいる			
評価項目1		事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している	実施状況
		課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input checked="" type="checkbox"/>
		中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input checked="" type="checkbox"/>
		策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input checked="" type="checkbox"/>
評価項目2		着実な計画の実行に取り組んでいる	実施状況
		事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた、計画の推進方法（体制、職員の役割や活動内容など）、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input checked="" type="checkbox"/>
		計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/>
講評			
内外の環境条件を把握し課題の解決に向け積極的に取り組んでいる			
内外環境の把握と課題抽出により解決に向け常に努力している。利用者意向の把握では、行事（運動会や食事等）に関する保護者アンケートを行い具体的な要望を聞き、運動会の改善と日常の遊びの重視への改善、また、行事の時期や内容を見直している。また、職員アンケートを実施し、長く働き続けられる職場環境づくりなど取り組んでいる。地域の子どもの現状と課題にたいしては、子育て広場の職員を増員し、「お楽しみ会」「身体測定」「離乳食アドバイス」「感染症対策」「育児で大切にしたいこと」など講座を開き地域子育てに貢献している。			
職員の主体性を尊重した現場重視の運営など重要課題と計画を明示している。			
H30年度の重要課題と計画としては、①ファシリテーション研修により新人も含めて全ての職員が意見を言い易くして現場職員の主体性を尊重した運営を図る②長く勤められる働き易い職場環境の改善③子どもの権利擁護と言葉づかい④職員育成の充実と幹部職員の育成⑤地域貢献として子育て広場、一時保育の充実と「保育ママ」との連携支援⑥保育所保育指針改定に基づく保育の質の向上⑦保育環境の整備等内外の環境条件の把握の上、重要課題を掲げ計画を設定している。			
計画を確実に実行し成果を上げるために具体的な内容でP D C Aを回すことが望ましい			
重要課題に基づく事業計画に従ってファシリテーション研修、働き易い職場環境、O J T研修、地域貢献など実行に移している。実行の成果確認の間隔は各課題によって異なるが1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月で確実に把握し次の計画に反映している。より確実な成果を挙げるためには計画内容を具体化し、実行の評価を確実にすることでP D C A科学的マネジメントのシステムを機能させることが望ましい。			

カテゴリー3 経営における社会的責任			
サブカテゴリー1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			
評価項目	評価項目1	社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる	実施状況
	標準項目1	全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	<input checked="" type="radio"/>
	標準項目2	全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	<input checked="" type="radio"/>
サブカテゴリー2 利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている			
評価項目	評価項目1	利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている	実施状況
	標準項目1	苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input checked="" type="radio"/>
	標準項目2	利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input checked="" type="radio"/>
評価項目	評価項目2	虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている	実施状況
	標準項目1	利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input checked="" type="radio"/>
	標準項目2	虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input checked="" type="radio"/>
サブカテゴリー3 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			
評価項目	評価項目1	透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる	実施状況
	標準項目1	透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input checked="" type="radio"/>
	標準項目2	ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input checked="" type="radio"/>
評価項目	評価項目2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている	実施状況
	標準項目1	地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input checked="" type="radio"/>
	標準項目2	事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク（事業者連絡会、施設長会など）に参画している	<input checked="" type="radio"/>
	標準項目3	地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input checked="" type="radio"/>
講評			
全国保育士倫理綱領や子どもの権利擁護を毎年再確認している			
全国保育士倫理綱領とチェックリストを活用し年1回全職員で再確認している。また、全職員で子どもの人権尊重の研修を行い、新人には新任研修にて周知するようにしている。権利擁護のしくみとして苦情解決制度は入園の際に説明し「入園のしおり」や入口掲示板に掲示しているが、保護者の理解は「はい」回答41%と高いとは言えないで改善する必要がある。個別要望はアンケートや日常お聞きしその都度改善を図っている。ホームページには苦情報告や事業報告書、現況報告書等掲載し運営の透明化に努めている。			
当園の人権方針を検討し人権尊重による信頼関係の高い園運営を目指している			
職員の研修として「子どもの人権」「アンガーマネジメント」等の研修を行い、言動を自分たちで見直せる様な機会を設けている。当園の人権方針として①人権関連法案の周知・徹底②利用者・家族・職員の信頼関係の構築③コミュニケーションによる職員相互の人権尊重④人権尊重の職員育成と保育の質向上等を掲げている。広報としては分かり易い具体的な内容で掲載する様に望みたい。虐待に対する組織的な取り組みとしては、虐待防止のためにマニュアルを共有化し、事例が有れば子ども発達支援センターと密に連携し支援する様にしている。			
地域貢献を果たすべく「子育て広場」「一時保育」など充実を図っている			
地域の中で保育所の役割が大きくなっている現状に応えるために、地域の子育て家庭支援として「子育て広場事業の充実」と「一時保育事業の充実」に力を入れている。また、地域の「保育ママ」事業者との連携支援も行っている。地域の園長会や青少年育成北地域委員会に出席し地域全体の子どもの成長課題について共有化し課題解決に努めている。園としては保育実習生を毎年5~6名受け入れ、また、中学生・高校生の職場体験を受け入れ社会貢献に努めている。			

※実施あり：、実施なし：、非該当：

カテゴリー4 リスクマネジメント			
サブカテゴリー1 リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる			
評価項目1		事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる	実施状況
		事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/>
		標準項目2 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/>
		標準項目3 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	<input type="radio"/>
		標準項目4 リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/>
		標準項目5 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/>
サブカテゴリー2 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている			
評価項目1		事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている	実施状況
		標準項目1 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/>
		標準項目2 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/>
		標準項目3 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/>
		標準項目4 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/>
講評			
<b>優先順位の高いリスクのマニュアル整備と共有化により事故防止に努めている</b>			
重篤な危険性の高いリスクに優先順位をつけマニュアルを整備し共有化し、チェックリストで確実に実行する様にしている。午睡時のチェックの徹底、プール時の監視等役割分担の確認、年齢別の誤嚥防止対策、食アレルギーと除去食、配膳時の徹底、エビペンの扱いや救命研修、緊急時の体制など徹底している。また、事故報告書による個人別事故原因の把握と対策の周知・徹底、日誌によるヒヤリ・ハット記録と朝礼や職員会議による事故防止意識の徹底に努めている。			
<b>季節に対応する感染対策を研修し、災害訓練では的確な判断が出来る様に努めている</b>			
感染症対策は看護師が中心に流行する時期に合わせて、食中毒対策、ノロ対策、インフルエンザ対策など優先順位の高い感染症を研修し防止意識を強化している、また、保護者にも保健だより等で案内し、地域の子育て支援として感染防止の講座を開いている。災害対策としては年1回は消防署と連携し消火訓練を行い、毎月は地震と火災想定で場面を変え、消火・避難訓練を行い、実際に発生した場合に的確な判断が出来る様に訓練している。			
<b>SNS対策を研修し全職員で注意事項の意識向上を図っている</b>			
個人情報管理規定やプライバシーポリシーを定め、職員はもとより実習生や中高生の職業訓練生にも周知・徹底している。また、SNSの個人情報の洩れによる危険性を他で起きた事例に基づき研修を行い意識の強化を図っている。行事の写真等の掲載は必ず同意・不同意を確認している。情報管理に関しては保育に関する記録情報をサーバーにて一元管理し各職員はパスワードにてアクセスする様にし、また、サーバーはセキュリティソフトでガードする様に対応している。園内の人事情報など重要性の高い情報は管理者が管理している。			

カテゴリー5 職員と組織の能力向上			
サブカテゴリー1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			
評価項目1		事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている	実施状況
		事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="checkbox"/>
		事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="checkbox"/>
評価項目2		事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している	実施状況
		事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）が職員に分かりやすく周知されている	<input type="checkbox"/>
		事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="checkbox"/>
評価項目3		事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる	実施状況
		勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="checkbox"/>
		職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	<input type="checkbox"/>
		職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成（研修）計画へ反映している	<input type="checkbox"/>
		指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="checkbox"/>
評価項目4		職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる	実施状況
		事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と待遇（賃金、昇進・昇格等）・称賛などを連動させている	<input type="checkbox"/>
		就業状況（勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど）を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="checkbox"/>
		職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="checkbox"/>
		職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="checkbox"/>
サブカテゴリー2 組織力の向上に取り組んでいる			
評価項目1		組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	実施状況
		職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="checkbox"/>
		職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="checkbox"/>
		目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="checkbox"/>
講評			
キャリアアップ指導計画書や自己目標の設定、指導体系の充実等で職員育成を図っている			
キャリアアップ指導計画書を作成し、キャリア層別や専門職別の最も求められる能力を明示している。キャリアアップ指導計画を参考に、職員は自己分析シートを記入し年間目標を考え、発表し相互に共有した上で、内外研修参加やOJT実践研修で成長を図っている。また、人材配置は各クラスの担当に加え5名の常勤職員が重複配置され余裕のある職員体制で、かつ、主任の下に2名の副主任が配置され、話し合い・助言を充実し現場主体の保育が可能な体制となっている。			
保育理念の実現のため主な研修課題を設定し計画的に研修している			
保育理念や目標の実現に向け、現状を踏まえ重要な研修課題を設定し計画的に研修を進めている。主なテーマと目的は①ファシリテーション研修では全職員が意見を述べ他者の話を聞き、保育士自身の自己肯定感の向上や現場主体の保育運営の強化を目的とする②非認知的能力研修では保育実践踏まえて自尊心や自己抑制、忍耐力等の社会的情動スキルを育むことを目的とする。また、様々な外部研修には希望者が参加し園内で共有研修を行っている。現在の研修内容とキャリアアップ指導計画と連動した理解が不十分なので整理し位置づけを明確にする必要がある。			
長く働き続けられる職場づくりに努め職員定着率が高い			
職員アンケートを実施し、長く働き続けられる職場づくりに努め、職員の定着率が高い職場である。働き甲斐があり働き易い職場づくりのために配慮している主要な事は①ファシリテーション研修などで職員相互の理解を深めチームワークの良い職場を作る②出産、子育て、介護など個別事情を配慮し長く勤務できる体制づくり③リフレッシュ休暇や有休などワークライフバランスを配慮する④余裕のある勤務体制で残業など最小限にする⑤記録のICT化、行事の簡素化など雑務の合理化など職員のモチベーション向上に努めている。			

カテゴリーコード 事業所の重要課題に対する組織的な活動		
サブカテゴリーコード 事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている		
評価項目 前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）	事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その1）	
	<p>当園の保育理念や保育目標・姿勢、保育所の役割を実現するために、当園を取り巻く外部環境、内部環境、前年度の反省を踏まえて、最重要課題として全職員の目標を「子ども一人ひとりを大切に」「話し合いによる現場中心の運営」を目標として、3つの取り組みテーマを設定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①職員の主体性を尊重した現場中心の運営、</li> <li>②そのため職員間のコミュニケーション能力の向上、</li> <li>③職員間のチームワークの向上</li> </ul> <p>以上3つのテーマを計画的に組織的に取り組んでいる。まず、リーダー層で検討会を行い、チームワーク向上に向けどのような取り組みを行えばよいか話し合いキャリアアップ指導計画の中に盛り込み、研修としてファシリテーションスキル研修を実施している。当研修により職員が自由に意見を述べ、お互いに意見を尊重し、全職員参画による意識向上に取り組んだ。職員間のコミュニケーション向上がクラス毎の話し合いや日常のコミュニケーションの向上に繋がり、組織運営の向上・チームワークの向上に繋がり、職員による現場主体の保育を行うことが進み、保育の質の向上に向けた取り組みとなっている。</p>	
	評語	目標の設定と取り組み
		具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
		取り組みの検証
		目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
		検証結果の反映
【講評】 最重要課題の解決のための組織的な取り組み結果は、まず、職員全員が「どのような保育を目指したいか」について意見を出し目標を具体化した上で、ファシリテーション研修を定期的に実施している。ファシリテーション研修の成果をクラス会議、日常の情報共有の徹底、指導計画の話し合いの充実等に活かし、成果確認の間隔は各課題によって異なるが1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月で確実に把握し、次の事業計画に反映している。成果として職員自己評価より、「職場の人間関係が良い」「皆で同じように考えて保育を行っている」「話し合いの機会が多く問題解決意識が高い」等の発言が多数見られる。より確実な成果を挙げるためには計画内容を具体化し、実行の評価を確実にすることでP D C A科学的マネジメントのシステムをより一層機能させることができると期待する。		
評価項目 前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）	事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）	
	<p>改定の機会に保育所保育指針の理解を深め、当園の保育理念・目標・役割や人権方針を再認識することで意識改革を図り、保育の質向上を図ることを2つ目の最重要課題としている。当園の保育理念・目標の実践的課題として「非認知的能力の向上」「自己肯定感の向上」を掲げている。保育所保育指針の改定の方向性と課題を研修で共有し職員の意識改革を図り、O J T研修として「非認知的能力を育む」研修を保育実践踏まえて定期的に実施し、職員の実践的支援力の向上を図っている。</p>	
	評語	目標の設定と取り組み
		具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
		取り組みの検証
		目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
		検証結果の反映
【講評】 改定保育所保育指針の解説と全職員の意見のまとめ「目指したい保育」を明確にしたうえで、定期的に「非認知的能力の向上」の保育実践的研修を実施した。研修の成果は毎月の指導計画、週案、日案に反映する様に努めた。成果は保護者アンケートの「園での活動が発達に役立つっていると思うか」「園での活動は興味や関心を持つものになっているか」の設問が100%「はい」回答として表れていると思われる。また、職員自己評価では「日々の保育を話し合い、保育の質向上を図った」等の発言が多く見られる。今後当園の保育理念・目標の実践的課題として「非認知的能力の向上」「自己肯定感の向上」の研修が指導計画、週案・日案にどう反映しているかの確認をさらに具体的に明確に行い、全職員で再確認し幹部と現場職員とが常に会話し、さらに保護者とも共有し、理念に基づく目指したい保育を期待したい。		

## VI サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6）

カテゴリー6 サービス提供のプロセス			
サブカテゴリー1 サービス情報の提供			
	評価項目1	利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	実施状況
	標準項目1	利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/>
	標準項目2	利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	<input type="radio"/>
	標準項目3	事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/>
	標準項目4	利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/>

**講評**

**利用希望者が知りたい情報を得やすく、必要に応じて提供できるような工夫をしている**

入園したい保育園を探す段階から、広く情報提供ができるようにホームページを作成している。トップページには、入園希望者の方へとして保育園へ入園できる基準や手続きの仕方についてと基本的な内容を紹介している。保育所の役割、園の概要、方針、保育目標、保育の種類、保育時間、行事、給食、子育て広場についても、写真を添えてわかりやすく記載し、随時更新を行ない、情報発信をしている。また、園の情報をまとめたパンフレットも作成されており、見学者や子育て広場、一時保育利用者に配布している。

**入園希望者の見学や問い合わせには、丁寧に対応している**

見学は基本的に希望日を優先し9時半頃から実施をしているが、より園の雰囲気を感じることができるように、子育て広場の開放日や毎月1回行われているお楽しみ会に合わせての来園を勧めている。見学者には施設を案内する際に園内掲示の閲覧やパンフレットの配布で園が大切にしていることや概要を説明し、各クラスの様子や環境等を案内している。一時保育や延長保育については利用案内やガイドブックがあり、利用についての問い合わせの際には配布し説明をしている。入園後の子どもの様子や生活が想像できるように具体的で丁寧な説明を心がけている。

**地域活動を通して近隣との交流を深め、園の情報発信をしている**

地域の中で楽しく子育てができるように、子育て広場「きらきら」を週3日実施している。また、月に1度「赤ちゃん身体測定」を実施し、予約なしで利用できることから、子育て中の方が誘い合って参加することができ園の情報が口コミで広がっている。区の近隣公園では花壇の一画を借りてひまわりを育てるフラワーキッズに参加し、交替で水やりをしている。地域開放の行事として行っている園祭りには地域の方、卒園児、中高生を招待し楽しいひと時を過ごしている。複数の活動を通して地域の保育園としての発信と園理解を深める機会として活用している。

サブカテゴリー2 サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1	サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	実施状況
標準項目1	サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/>
標準項目2	サービス内容について、保護者の同意を得るよう正在している	<input type="radio"/>
標準項目3	サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/>
評価項目2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている	実施状況
標準項目1	サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/>
標準項目2	利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	<input type="radio"/>
標準項目3	サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/>

**講評****入園のしおりを基に保育園利用や保育方針について、わかりやすく説明をしている**

入園説明会では、利用者が理解しやすいように写真を使用する等、内容を充実させた入園のしおりに沿って園の理念、方針、保育目標、保育時間、年間行事、緊急時の対応について等の重要な事項を説明している。また、家庭の役割と園での役割を明示し、親との愛着関係の大切さや責務についても、保護者から子育てを取り上げなることなく、共に子育てをしていく上での車の両輪に例えて冒頭に記載されている。個人情報については写真の撮影や使用、ホームページへの記載等についてアンケート調査を行い、保護者の同意に沿って対応をしている。

**入園前の成育歴や家庭状況、利用の意向を書面と面談で把握し記録している**

入園時に保護者が記入した入園前調査票を基に面談を行い、保育を開始する体制を整えている。書類には発達や発育、栄養の様子、予防接種、アレルギー、ひきつけ等の既往歴、気になること、問診票では家庭での呼び方や癖、食事や睡眠時の様子、保護者の就労状況及び勤務や通勤時間、延長保育の利用希望等を聞き取り、一人ひとりの支援に必要な事柄の把握をしている。保護者の記入した書類を基に聞き取りを行い、保護者の状況や意向を把握し園での対応について確認をしている。子どもの状況は担任に引き継がれ、はぐくむ保育に記録し職員に周知している。

**環境の変化による不安の軽減に努め、無理なく園生活に慣れるように配慮している**

園生活に慣れるための目安を一週間程度は必要と考え、一人ひとりの状況や保護者の就労状況を考慮し、慣らし保育表を作成している。子どもの不安を少しでも軽減するために、入園当初はスキンシップや家庭と同じ呼び方で名前を呼ぶ、家庭で使用しているお気に入りのタオル等がある場合は持参してもらう、と個別の対応を行っている。生活環境が変わり保護者と離れることへの不安で泣いたり登園を嫌がることは当然の姿であることを伝え、保護者の不安も受け止めながら、無理なく園生活に慣れることができるように配慮している。

サブカテゴリー3 個別状況の記録と計画策定			
	評価項目1	定められた手順に従ってアセスメント（情報収集、分析および課題設定）を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している	実施状況
	標準項目1	子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/>
	標準項目2	子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/>
	標準項目3	アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/>
	評価項目2	全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している	実施状況
	標準項目1	指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/>
	標準項目2	指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	<input type="radio"/>
	標準項目3	個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況（年齢・発達の状況など）に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/>
	標準項目4	指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/>
	標準項目5	指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	<input type="radio"/>
	評価項目3	子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している	実施状況
	標準項目1	子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/>
	標準項目2	指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/>
	評価項目4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している	実施状況
	標準項目1	指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/>
	標準項目2	申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/>

**講評****指導計画の内容については保護者会や園だより、クラスだより等で保護者に伝えている**

園の基本理念、保育課程に基づいて年齢別の年間指導計画、月案、週日案を作成し保育を行っている。保育方針については入園時や年度当初に行う保護者会で園長や主任保育士から説明をし、園だよりでも園長のコラムやクラスだよりを掲載する等、保育園理解につながるよう努めている。年齢に応じた保育目標や保育の実践については、クラス毎の懇談会や個人面談の中で具体的に伝えている。その際に保護者から家庭での様子や意見を聞き、保育に反映するよう心がけている。保育内容についてはクラス前の掲示板を活用し保護者に伝わるように工夫をしている。

**保育業務支援ソフトを使用し園児の状況や計画等、全職員で共有できる環境を整えている**

指導計画や日誌、未満児クラスのお便り帳等はソフトを使用して作成し、計画の書式や記録を標準化することで事務の簡素化と効率化を図っている。園児全員の発達の過程やその日の様子をソフトで管理することで全職員が共有しやすい環境は整っているが、職員が全ての情報をチェックし把握できているのかは確認できていない現状がある。子どもの姿は児童票や保育日誌に記録されているが、ソフトだけでは細かい情報の周知や担任の意見の反映が難しい面がある。毎日の職員連絡事項の欄もあるが、子どもの情報と同様に周知及び共有方法の工夫が望まれる。

**保育内容は期毎に振り返りを行い、子どもの姿に応じた指導計画の作成に努めている**

今年度は指針改定を踏まえ、子ども達の様子に合わせた年間指導計画を作成し、1年を4期に分けて期毎に振り返りを行い、達成度に応じて項目別に見直し等を行うようにしている。日々の保育の振り返りが週日案、月案へつながり、期の反省に反映されることが望ましい。指導計画は全て保育業務ソフトで行っているが、現段階で新保育所保育指針に対応していないこともあり、書式や項目等反映できていない現状もある。内容や特記事項、個別配慮の欄を活用するなどして保育情勢の流れに合わせた立案方法の工夫に期待する。

サブカテゴリー4 サービスの実施			
	評価項目1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	実施状況
	標準項目1	発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	<input type="radio"/>
	標準項目2	子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	<input type="radio"/>
	標準項目3	子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	<input type="radio"/>
	標準項目4	特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	<input type="radio"/>
	標準項目5	発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつき等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	<input type="radio"/>
	標準項目6	【5歳児の定員を設けている保育所のみ】小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	<input type="radio"/>

**講評****子どもの発達や家庭環境等の変化は個別に記録し、保育や保護者対応に活かしている**

園生活の中で子どもの心身の発達や健康状態、または家庭環境に関する変化が生じた場合は、速やかに保育業務支援ソフトを使用して成長の記録等として記入している。内容はソフト内で全職員が共有できるが、毎月の職員会議等でも子どもの状況を報告し合い、子どもの全体像を共通理解することで、園の目標である「家庭的であたたかみのある保育」に向けての援助方法等を話し合っている。子どもに一日を通して同様のかかわりができるよう、職員間の引継ぎにも活用している。

**特別な配慮が必要な子どもには、専門機関と連携を持ち適切な対応を心がけている**

発達の気になる子どもについては、行政による巡回指導の際に言動や生活、発達の様子を伝え、実際の姿をみてもらっている。園生活を送る上で特別な配慮が必要と判断した場合には、指導員が保護者と直接話し合いを行い、保健センターや発達支援センターにつないでいる。園では、子どもにとって適切な対応ができるよう、センター等の関係機関や保護者との連携を密にし情報交換を行っている。保育の中では保育者が関わる姿を示し、クラスの一人として尊重し子ども同士が自然体で生活できるよう心がけている。

**就学に向けて小学校と連携が円滑になるような取り組みを行っている**

近隣の小学校、幼稚園、保育園で構成されている幼保小連携連絡会議に職員が参加して情報交換を行い、小学校側から保育園に望むこと等の情報収集をしている。小学校で行っている発表会の練習の様子を見学する機会を設け、子ども達が学校を身近に感じることができるようになっている。就学児の状況は保育所保育要録に記録して就学先へ提出し、必要に応じて問い合わせ等に応じている。特別な配慮が必要な子どもについては、区で作成しているアイリストートに別途記入し、より細やかな引継ぎを行い就学後の不安の軽減に努めている。

	評価項目2	子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている	実施状況
	標準項目1	登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	<input type="radio"/>
	標準項目2	発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	<input type="radio"/>
	標準項目3	休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	<input type="radio"/>
	標準項目4	降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	<input type="radio"/>

**講評****登園時に子どもの体調や状態を保護者に直接確認し、保育への配慮に活かしている**

3歳未満児クラスは、降園後から翌日の登園までの時間を含む、子どもの24時間の生活がわかる書式の連絡帳で毎日の健康状態や変化を把握している。3歳以上児については、保護者から聞き取りをした内容や視診で必要と感じたことは引継ぎ表に記載され、担任に伝達される。また、4階の職員限定のスペースにも同様の引継ぎ表が置かれ、時差出勤の職員も確認ができるようにしている。子どもの情報を把握することで、心身の状態に合わせて個別対応をする等、きめの細かい保育を心がけている。

**保護者と連携を基に個人差を考慮しながら、基本的な生活習慣が身につくようにしている**

日中の大半を保育園で過ごすことを考慮し、特に0歳児は家庭と同じように一人ひとりの生活リズムを大切にしながら個別配慮を基本とすることを入園のしおりで丁寧に説明している。保育目標に「生活習慣を身につける」を掲げ、年齢や発達に応じて個人差を把握し、家庭との連携を取りながらリズムを整えている。着脱や排泄の自立は3歳児の終わりを目安とし、睡眠は子どもの様子に応じて柔軟に対応して健康管理にも気をつけている。年齢毎の発達の目安はクラスだよりや個人面談で共通理解を図りながら、家庭と保育園が両輪となつて進めている。

**保育中の怪我や個別の伝達事項は引継ぎ表に記入し、保護者に口頭で伝えている**

3歳未満児については、保育中の出来事や怪我等について連絡帳に細かく記入している。3歳以上児は体調の変化や怪我等を引継ぎ表を基に延長担当保育士にも口頭で伝達している。延長保育利用の保護者には、遅番保育士より直接口頭で伝達事項を丁寧に伝え、怪我等があった際にも理解が得られるよう努力をしている。迎えが遅い保護者と担任のコミュニケーションを取ることが難しいことから、日中の活動の様子をわかりやすく伝えるために、写真等を使用した掲示をする等、遅番保育士とも連携しやすい発信方法の工夫に期待する。

評価項目3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している	実施状況
標準項目1	子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	<input type="radio"/>
標準項目2	子どもが、集団活動に主体的に関わられるよう援助している	<input type="radio"/>
標準項目3	子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	<input type="radio"/>
標準項目4	子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	<input type="radio"/>
標準項目5	戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるように視点を取り入れている	<input type="radio"/>
標準項目6	生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	<input type="radio"/>

**講評****子どもが自主的に遊ぶ時間を設け、工夫や協力をしながら楽しく過ごしている**

登園してからクラス別の活動に入るまでや午後のおやつの後の時間帯は、クラス内に常設された遊具や玩具、教具等、遊びたい物を選び個別や好きな友達と一緒に、自由に遊びを展開している。保育者は空間を細かく分ける、子どもの興味関心に合わせた玩具を用意する等、子どもの発想を取り入れクラスの状況に合わせた環境作りを行っている。子どもだけでは遊びが広がらない場合は、保育者がさりげなくヒントを加えながら、遊びの充実を図っている。また、遊びを通して使ったら片付ける等の基本的なきまりが習慣づけ相手を思いやる気持ちも育んでいる。

**子どもが自分の気持ちを言葉で表現できるような援助をしている**

子どもが安心して自己表現ができる環境の第一歩として、まず保育者との基本的な信頼関係を築くことを大切にしている。園生活の中で言葉に対する興味や関心が持てるよう、クラス毎に保育者が子どもの発達や季節に合わせて選んだ絵本のコーナーがある。保育者が読み聞かせをする繰り返しの中で、言葉のやり取りを楽しみながら、ごっこ遊び、劇遊び、オペレッタ等へつなげている。また、子どもが気持ちを自分の言葉で伝えようとしている時は、焦らずにゆっくりと話すように促したり、一緒に言ったりしながら、子どもの気持ちに寄り添っている。

**園外活動を積極的に取り入れ、自然観察や様々な関わりの中で豊かな感性を育んでいる**

0歳児は「散歩や外気浴を通して自然に触れたり、全身の発達を促進します」と入園のしおりに記載し、風の流れの心地よさを感じたり、小動物を観察したりと散歩ならではの刺激や経験を大切にしている。全年齢が散歩を取り入れ、その時期に合わせたコースを選び季節の移り変わりを視覚的な部分だけでなく匂い、気温の変化等、五感を通して感じる機会を作っている。保育者は、年齢や発達に合わせた気づきができるように関わり、観る、考える、試す中で、感性豊かな子どもに育つよう援助している。

評価項目4	日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している	実施状況
標準項目1	行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	<input type="radio"/>
標準項目2	みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	<input type="radio"/>
標準項目3	子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	<input type="radio"/>

**講評****行事内容は日常の遊びから発展した保育を行事に繋げている**

日々の保育の中で行事を迎えるまでの取り組みを子どもと共に余韻を持って進めることができている。また当日だけで終わることなく子どもの姿を見ながら保育が切れないように実践し、保育内容を計画して取り組んでいる。年齢に応じて行事などの持つ意味を理解できる工夫の取り組みもおこなっている。子どもの主体性を大事にする保育に向け職員で話し合い、見直しファシリテーション研修を受けるなど保育理念や目標に向け全職員で取り組む姿勢がある。

**行事の意図を説明し保護者が見通しを持って参加できるように配慮している**

4月当初の保護者会で年間行事予定を配布し説明をおこなっている。保護者参加もスムーズにできるように0歳児、1歳児の新入園児の保護者へは詳しく口頭で伝え、行事の内容、あり方などの理解に努めている。事前に行事の内容を記載したお便りを配布したり、掲示物などで知らせ、期待感を持って行事に参加できるようにしている。保育参観月間を設けたり、個人面談も長い期間（10日）実施し時間帯にも配慮し保護者の都合の良い日に実施している。運動会などの行事後にはアンケートを配布し保護者の意向も反映し進めている。

**保育内容を園内掲示、お便りなどで発信し保育の見える化に工夫をしている**

日々の保育をお便り帳に記録したり、園だより、クラスだよりの配布などで知らせたり、また直接子どもの様子を伝え保護者に保育内容を理解してもらえるように園全体で取り組んでいる。行事や戸外遊びについての保護者アンケートでは100%と高い評価となっている。お便りや掲示物以外でもホームページでいつでも保育内容が見られるように閲覧していて保育の見える化にも重点を置いている。

評価項目5	保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		実施状況
標準項目1	保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		<input type="radio"/>
標準項目2	保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		<input type="radio"/>

**講評****保育時間の長い子どもがくつろげる場や安心して過ごせる環境を整えている**

担当保育士から遅番の保育士へ引継ぎをおこなうが遅番の保育士は固定しているのでスムーズで子どもにとっても心強く、安心できる環境となっている。子どもの状況を見て遊具設定したり、ゆったりと過ごしたり身体を休める場を設けたりして環境を整えている。特に合同保育になった時は絵本など用意し静的な遊びを用意したり、保育士と共に不安なく過ごせるように努めている。また捕食を食べることで落ち着き和んだ雰囲気になるように配慮してお迎えを待つようにしている。

**保育形態が変化する中で担当保育士が子ども一人ひとりを把握し保育している**

延長保育士は専任となっているのでスムーズに子どもを受けとめ保育している。保育士は一人ひとりの遊びの様子や感情の変化などにも配慮した保育をおこなっている。また遅い時間になると疲れも出てくるので健康に関しても変化を見逃さず、万が一変化があった場合は引継ぎ表に記入し保護者に的確に伝えている。異年齢が共に過ごす中でこの時間になら触れ合える喜びや楽しみが持てるよう保育士は環境の整備や子ども一人ひとりを見守り安定した保育を整えている。

**連絡帳や朝夕の引継ぎ表を基に子どもの様子、変化などを保護者に直接伝えている**

保育時間内のお迎えについては担任より直接顔を合わせて日中の子どもの様子を伝えている。延長保育の場合は延長担当保育士から伝達や引き継ぎ表などで日中の子どもの様子や発達の変化などを口頭で伝え漏れないようにチェックをおこなっている。保護者対応については個々に違い難しいケースもあるので職員は会議の中でケースを出し意見交換したり研修などでコミュニケーション能力やチームワーク能力の向上を図り保育の質の向上にも取り組んでいる。

評価項目6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		実施状況
標準項目1	子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		<input type="radio"/>
標準項目2	メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		<input type="radio"/>
標準項目3	子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している		<input type="radio"/>
標準項目4	食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている		<input type="radio"/>

**講評****食についての関心を深める為の取り組みを職員間の連携で工夫し実施している**

色々な食品、旬の食材を取り入れて献立作成し、食事を作る人（栄養士、調理士）食べさせる人（保育士、看護師）が子ども一人ひとりの食べ具合などを見ながら進めている。おかげする子の状況や残菜量なども把握し関わっている。食育活動は4~5歳児がプランターでトマトやゴーヤを栽培し水やりや世話をして収穫した野菜を調理してもらう。月1回の特別メニュー、行事食を提供してその意味を使っている。栄養士から食事のマナーや三色の栄養の話をしたり一緒に調理をし体験することで楽しく食事をすることに繋げている。

**給食計画は年齢別の食体験をしたり知識や経験を積み重ねていけるようにしている**

給食計画表には調理年間目標、食育目標、食育年齢別計画、アレルギー計画など細かく計画されている。食育活動は0歳後半から5歳まで年齢に合った活動になっており食材に触れたり調理保育したりしている。4,5歳の子は調理の幅も広がり、つくることで食の大切さなどが身につき食育に繋がる保育となっている。季節の梅シロップやブルーベリージャムなど年間を通して貴重な体験ができるよう保育室と給食室が話し合った計画となっている。

**食物アレルギーや宗教上の配慮など気配りし優しい食事の提供をしている**

アレルギー児の場合は医師の診断に基づき保護者との面接を行い毎月個人献立表を作成し、子どもの進み具合などを話し合い対応している。アレルギー食を提供する場合は最終的に栄養士が確認し、担当保育士と氏名、除去、代替食品を記入したプレートで再度確認し合い、安全に提供できる体制を整えている。全職員が共通理解して対応し徹底している。また宗教上の対応もしており、除去、代替えの食事を可能な限り提供している。味付けに関して特に0歳児の離乳食では昆布や鰹粉などでだしを取り塩分にも気を配りやさしい食事の提供に配慮している。

評価項目7		子どもが心身の健康を維持できるよう援助している	実施状況
	標準項目1	子どもが自分の健康や安全に关心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	<input type="radio"/>
	標準項目2	医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	<input type="radio"/>
	標準項目3	保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	<input type="radio"/>

**講評****子どもが心身の健康を維持できるよう保護者と連携を図っている**

年間保健計画は健康目標、保健内容、健康・安全衛生、保護者や子どもの働きかけ、職員に向けてなど詳細に内容を明記している。看護師は日々、0歳児保育、他の園児への体調把握や怪我の対応に巡回して把握に努めている。全職員が園の保育目標「丈夫な体づくり」として①薄着の習慣②歩くこと、を掲げ年間を通して実行している。散歩コースは年齢や目的に応じて選び計画的におこなっている。また怪我や発熱時に関しても看護師が対応し状況により保護者に連絡している。職員には保育業務ソフト内の保健記事や個別記録へ記入し全職員の閲覧に努めている。

**医療機関との連携を図り子どもの個別状況に応じた健康管理を支援している**

医療的ケアの必要な子の対応は入園前健康調査や食物除去依頼書・指示書などで確認している。熱性痙攣やその他の持病などは職員が確認して保育園で発作などが起きた場合は保護者に電話連絡をし迎えをお願いする。急を要する場合は保護者了解のもと病院に看護師が付き添い受診したりすることもある。病気や怪我などの判断に迷った時は嘱託医に相談し指示を仰いだりして連携を図っている。保育中の病気や怪我が起きた時のために緊急時連絡票にかかりつけ医院やアレルギーについても記入してもらい万全の体制を整えている。

**感染症や乳幼児突然死症候群（SIDS）の説明や情報提供をおこない予防に努めている**

乳幼児突然死症候群（SIDS）や感染症などの予防については年度当初の保護者会などで資料（入園のしおり）を基に説明し保護者に注意喚起を行う。0歳児は入園式後に実際にうつぶせ寝の子には身体の向きを変えることや布団の種類についても保護者に啓蒙している。保育園でも対策として0歳児の午睡チェック表に10分間隔でチェック（うつぶせ・呼吸・顔色・咳）などをおこない、安全に寝られるように十分に配慮している。感染症対策、熱中症対策として下痢、嘔吐などの対応、処理の仕方など予防の徹底、発生状況など適時に周知、徹底している。

評価項目8		保護者が安心して子育てをできるよう支援を行っている	実施状況
	標準項目1	保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	<input type="radio"/>
	標準項目2	保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/>
	標準項目3	保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/>
	標準項目4	子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/>
	標準項目5	保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	<input type="radio"/>

**講評****保護者の子育てや就労など個々の事情に配慮して支援している**

個々の家庭状況を把握したり就労状況や通勤時間なども把握し、保護者・子どもに合わせた支援をおこなっている。育児困難保護者にも面談や状況を把握して担任だけでなく主任保育士が子育ての悩みや相談に応じたり段階を踏んで進めていく支援のネットワークをつくっている。中々会えない保護者にも送迎時に機会をつくったり、面談でも話を聞いたり、相談できる体制も整え実践している。保護者が仕事と子育てが両立できるような支援に努め、急な残業ややむ得ない事情による保育時間の変更にも柔軟に対応している。

**保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをおこなっている**

保護者アンケートでも職員との信頼関係では91%の高い回答であり、職員への相談ができたり、コミュニケーションがとれ良い関係が持てているという結果が出ている。また送迎時の際の会話や行事のお手伝いなどで交流する機会も設け関係づくりの構築が出来ている。一番は日々の挨拶が基本であり保護者との信頼関係にも繋がって行き、どの保護者にもまんべんなく交流ができるようになっている。今後は中々会えない保護者には時間をつくる関係づくりに取り組んでいく。

**園の行事などを通して保護者同士が交流できる機会を設けている**

行事に関しても年度当初に年間計画を伝え、伝統文化を取り入れ行事に触れる中で共に喜び会える楽しい内容になるよう配慮し積極的に参加してもらえるように計画している。保護者会、懇談会、保育参加、個人面談などに参加をすることで保護者同士が話し合ったり交流したり、情報交換できる内容になっている。行事を通して子育ての楽しさや自分の子だけではなく他の子どもにも目を向け関わったり子どもを通して保護者同士のコミュニケーションを持ち子育ての輪が広がっている。今後更に保護者同士の交流が深まるよう内容などの検討を期待したい。

評価項目9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		実施状況
	標準項目1	地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/>
	標準項目2	園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/>

**講評****子どもが地域の中で体験したり交流したりできるように計画的におこなっている**

保育理念の中に地域の子育て支援を通して社会貢献をすると掲げ、地域資源を活用したり地域の公園での花壇の花植えや児童館、プラネタリム、シルエット劇場の観劇などに意欲的に参加し交流をしている。地域の行事に参加することは子どもが職員以外の人と交流ができ、社会性も育てていける良い機会となっている。年々地域資源に関わる機会が増えているので子どもの姿や成長などを保護者や地域の人に分かり易く発信していくことが課題となっている。

**地域の在宅子育て家庭が園の行事に参加し様々な人の交流をしている**

地域の子育て家庭も園の行事に参加する機会を設けている。園祭りは遊びのコーナーや食事のコーナーもあり在園児と共に意欲的に活動する姿が見られる。子育て広場（きらきら）では0歳児から3歳児のお子さんと保護者が対象でホームページで発信したり園内のポスター掲示で前月にお知らせして参加者を募り受け入れている。その中でも月1回の身体測定は保護者からの人気で看護師に測定してもらいカードに記入して渡している。園ならではの実施で保護者の求めていることでもあり継続した取り組みとなっている。

**園の持つ職員の専門性を地域に提供するように努めている**

地域の中の保育園が地域住民との触れ合いや園の持つ職員の専門性を活かせる場として支援できる取り組みをしている。ホームページを通して園の情報発信もおこない、内容なども検討しながら提供している。地域事業に力をいれており、一時保育や子育て広場なども積極的に受け入れて年間計画でも専門職の発信をおこない好評である。栄養士は離乳食・食育について看護師は感染症・予防接種について担当保育士は育児ワンポイント講座（アタッチメント）をおこない参加者も増え向上している。また子育て相談も多くベテラン保育士が対応し支援に努めている。

サブカテゴリー5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重			
	評価項目1	子どものプライバシー保護を徹底している	実施状況
	標準項目1	子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/>
	標準項目2	子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/>
	評価項目2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している	実施状況
	標準項目1	日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/>
	標準項目2	子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/>
	標準項目3	虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/>

  

講評
<b>個人情報利用目的は入園時に同意を取り、写真掲載等は毎年同意の確認をしている</b>
個人情報利用目的に関しては、個人情報保護管理規定を定め、入園時に説明し同意を得ている。また、写真等の掲載については毎年同意・不同意の確認を行っている。職員のみならず実習生や中高生の職場体験時にも個人情報保護方針を周知・徹底している。子どものプライバシー保護に関しては、プライバシーポリシーを定め、また、人権研修を通して、プール活用時にパーテーションにて視線を遮り、また、トイレにはドアをつける等プライバシーの保護に努めている。
<b>「自己肯定感」など保育の価値観を共有し個別状況に応じた支援に努めている</b>
子ども一人ひとりの尊重は、全職員が子ども一人ひとりを理解し、担任以外の職員も声をかけ、また、子どもの誕生日には誕生会を個別に行うなど一人ひとりを尊重した保育を行っている。保育の価値観として「自己肯定感」を尊重し、子ども・保護者・職員それぞれ自己肯定感が高まる信頼関係を大切にしている。個別には保護者会や個人面談を通して価値観や子育て情報、就労状況など把握して必要な援助が出来る様に努めている。社会的に増えている虐待発生時の対応は、虐待防止マニュアルを共有し子ども発達センターと連携し支援している。

サブカテゴリー6 事業所業務の標準化			
	評価項目1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	実施状況
	標準項目1	手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/>
	標準項目2	提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/>
	標準項目3	職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/>
	評価項目2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	実施状況
	標準項目1	提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/>
	標準項目2	提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/>

**講評****リスクマネジメント中心にマニュアルを整備し、安全確保に努めている**

標準化はリスクマネジメント関係として安全対策マニュアル（事故及び災害）、感染予防マニュアル、虐待防止マニュアル、保育の業務関係として業務マニュアル等を整備し、その都度必要に応じて共有し、また、チェック表で確認するなど実行面の確認している。最近見直したマニュアルは各種行事を見直し簡素化することで日常の保育に重点を置き質を上げる努力をすることで、保護者からも評価されている。また、日常業務のマニュアルを見直し無駄を削除することで時間の有効な使い方に成果が見られる。

**マニュアルの S D C A サイクルを回すことが必要と思われる**

業務や行事マニュアルの見直しで内容を簡素化し成果を挙げているマニュアルがあり、その時点で重要性が高いマニュアルは見直してるが、その他のマニュアルが見直されず活用が不十分と思われる。少なくとも4月の職員会議では重要なマニュアルは全部見直し全職員で共有化する必要があると思われる。古いマニュアルと一緒にファイルすると雑然として活用しにくいと思われるの、見直し後は古いマニュアルは除去することが望ましい。マニュアルの S D C A サイクルを回すことは業務レベル向上の上で必要と思われる。